私たちと一緒に早期支援を全国へ届けませんか?

活動の輪を広げるために、認定NPO法人を目指しています。
公益条件の一つとして、年3,000円以上の寄付者の人数が
100人以上であることが条件です。
皆様からの暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます

「発達支援を必要とするすべての人が自分らしく学び希望をもって生きていける社会を」
皆様のご寄付がこんな支援につながります。

① 質の高い個別療育を全国へ

② 支援者向け研修システムの開発

③ オンライン発達相談を
より多くの保護者へ

3,000〜10,000円コース

子ども達の成長を、いつも変わらず見守っていきたい。
1回でも毎月でも変わらぬ気持ちが込もったコースです。
▶ 3,000円コース・5,000円コース・10,000円コース

自由にいつでもコース

今日は素敵なことがあったから、頑張っている子ども達にも
分けてあげたい。思い立ったその時に、自由にいつでもいくらでも。
▶ 金額は自由にご指定いただけます

寄付は振込口座またはクレジット決済がご利用頂けます

●口座振替(寄付申込書のご提出をお願いします)三菱UFJ 銀行 恵比寿支店 //(普)0284405 特定非営利活動法人 ADDS
●クレジット決済・寄付についての詳細はコチラをご覧ください http://www.adds.or.jp/support/donation

団体概要

正式名称	特定非営利活動法人 ADDS
所在地	東京都杉並区荻窪 5-16-14 カバラビル 5F (ADDS Kids 1st 荻窪)
施設概要	児童発達支援事業・主たる事務所
共同代表(理事)	熊 仁美 竹内 弓乃
理事	原 由子 加藤 愛理
監事	河野 良雄

法人資格取得	平成 23 年 12 月 16 日
常勤職員	29名
非常勤職員	20名
運営事業所	ADDS Kids 1st 鎌倉 〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比ガ浜三丁目11番48号 由比ガ浜こどもセンター 3F 施設概要:児童発達支援事業、相談支援事業 江戸川区発達相談・支援センター(指定管理) 〒132-0031 東京都江戸川区平井四丁目1番29号 施設概要:児童発達支援センター、相談支援事業、発達障害相談センター

ADDS
Advanced Developmental
Disorders Support

特定非営利活動法人ADDS
ADDS
Advanced Developmental
Disorders Support

ANNUAL REPORT 2020

2020年の活動報告とこれからの展望

Mission

発達障害という概念が必要ない未来へ―

発達支援が必要なすべての人が自分らしく学び希望をもって生きていける社会をともに実現します

「日本に帰って一番辛いことは、我が子への療育環境がアメリカでいた頃のようには整わないことかな、と思っていました。でも、帰ってきたら違いました。私がアメリカで体験して学んだようなことを、子どもが幼稚園に入るような年齢まで知らない人が数多くいて、多くのお子さんの可能性が失われていることが一番辛かったです。今も、そのことが一番辛いです。」

これは、共同代表である竹内が学生のとき、自閉症の支援を始めるきっかけとなった保護者の方からいただいたお手紙の中の言葉です。日本では欧米に比べて、効果が実証されている療育を受けられる環境が不足しています。この頃から実に15年以上が経過し、「発達障害」という言葉は社会に広く知られ、障害者自立支援法の改正などをきっかけに子どもの通所施設も激増しました。創業当時と比べれば、発達障害を取り巻く社会は大きく変化してきています。

しかし、依然として支援の質や情報のばらつきは大きく、子育てに困り感を抱える保護者や現場の支援者からの切実なご相談は絶えません。私たちは、エビデンスに基づく質の高い支援の実践と研究を積み重ね、一人ひとりが個別最適化された学びのメニューを選べる仕組みづくりに今後も邁進します。

15年前に出会った子どもたちは大人になり、日々奮闘しながらそれぞれの人生を歩んでいます。自分らしく色々なことに向き合い、明日もちょっと楽しみだなと、希望をもって日々を過ごしていて欲しいと願わずにはいられません。

障害の有無にかかわらず、生まれた環境にかかわらず、誰もが自分の特性に合った学び方や暮らし方のできる社会になれば、「発達障害」という概念すら必要なくなるのかもしれません。療育・教育・福祉など業界の枠にとらわれず、社会の様々な立場の皆様と手を取り合い、そんな未来をつくっていきたいです。

ADDSの理念

保護者とともに取り組むこと

わたしたちは、保護者は子どもの一番の専門家になれると信じています。
子どもが学ぶ過程をしっかりと共有し、その親子らしい学びのスタイルを
ともに築くことを大切にしています。

研究成果に基づいた手法を選択すること

わたしたちは、応用行動分析学（ABA）に基づいた支援を行います。
ABAは、具体的な目標を立て、達成度を見極め、支援方法を進化させて
いくPDCAのサイクルを繰り返します。
子どもの豊かな学びに徹底的に向き合う方法論です。

社会に変化を起こすこと

子どもたちは、かかわる人や環境から様々なことを学びます。
わたしたちは、すべての人が、子どもたちの良き理解者、支援者となる
社会の仕組みづくりに取り組んでいます。

01 …… 私たちのミッション
02 …… ADDSの理念
03 …… ADDSの歩み
05 …… 代表挨拶
06 …… 私たちの事業
11 …… 私たちの活動と成果
13 …… 活動実績
14 …… 財務報告
15 …… 職員インタビュー
16 …… 職員特別対談
17 …… 関係者様の声
18 …… ADDSを支えてくださった皆さま

ADDSの歩み

2003

出会い

学生時代の「お話が苦手な幼稚園児に、遊びの中で言葉を教えるアルバイト」が自閉症の支援をはじめるきっかけに。

2006

学生の立場でできること

学生団体「慶應発達障害支援会（KDDS）」設立。大学院にて研究・臨床活動。

2009

保護者主体の療育を社会へ

- ◉任意団体「ADDS」の設立
- ◉「早期療育スタートアッププロジェクト 2009」
- ◉学生セラピスト部第1期生スタート
- ◉NEC 社会起業塾8期生に選出

2010

間借り生活

- ◉徹夜のプログラム作成
- ◉横浜指導ルーム（月）
- ◉中目黒指導ルーム（日）
- ◉六郷土手指導ルーム（日）

2011

恵比寿時代／NPO法人化

- ◉恵比寿指導ルーム
- ◉「早期療育スタートアッププログラム」提供数増加
- ◉他事業者へのセラピスト養成・研修提供開始

2013

新宿指導ルームOPEN

- ◉新宿指導ルーム開所
- ◉「児童発達支援事業」スタート
- ◉はじめて職員が入社

2014

荻窪指導ルームOPEN

- ◉2事業所目「ADDS Kids 1st 荻窪」開所
- ◉「発達の気になる子と家族の勉強会」

2015

新たな挑戦

- ◉情報発信サイト〜Hütte〜イベント開催
- ◉Hütteカフェ（先輩ママ座談会）
- ◉謎解き×自閉症体験プログラム「88ぶんのI」
- ◉「ぺあすく」開始
- ◉保護者向けE-learning プログラム開発

2016

研究と支援のひろがり

- ◉「早期療育スタートアッププログラム Ver.2」開始
- ◉「ぺあすく」のレギュラー化
- ◉NHKあさイチ発達障害特集
- ◉JST/RISTEX
  「研究開発成果実装支援プログラム」に採択

2017

年度戦略的創造研究推進事業「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム」に採択

有効な支援を全国へ

- ◉「ぺあすく」各地への実装スタート！
- ◉課題構成システム「AI-PAC」開発完了
- ◉ミサワホーム・セントスタッフ放課後等デイサービス「ミライエ」技術提携
- ◉三菱財団社会福祉事業・研究助成採択
- ◉自閉症啓発デー参加開始

エビデンスに基づいて保護者とともに取り組む発達障害児の早期療育モデルの実装PJ

2018

鎌倉指導ルームOPEN

- ◉3事業所目「ADDS Kids 1st 鎌倉」開所
- ◉AI-PAC実装公募説明会
- ◉実装機関が10機関へ

2019

クラウドファンディング READYFOR

「コロナに負けない。駆込み発達相談プラットホームを立ち上げたい」プロジェクト目標達成

みてね基金

「発達障害児と保護者のための駆込み発達相談プラットフォームの構築」採択

2020

READYFOR

新型コロナウィルス感染症 拡大防止活動基金 採択

- ◉READYFOR休眠預金活用基金
  新型コロナウイルス対応緊急支援事業に採択
- ◉オンライン発達相談サービス「kikotto」リリース

2021 >>>

江戸川区発達相談・支援センターOPEN（指定管理事業）

https://edo-hssc.jp/

Top Message

誰もがよりよく生きられる未来の実現を目指して

「すべての子どもたちが可能性を最大限に広げられる社会」を目指し創業した2009年から、はや12年が経ちました。感染症の影響もまだ僅かだった頃、法人全体の会議で100年後の社会に思いを馳せました。その未来社会では、様々なテクノロジーや文化が発展し、障害の有無にかかわらず、だれもが個として自分らしい学びと暮らしを体現していました。その場にいた皆が、「発達障害の概念が必要ない」未来の実現は可能であると感じていることが分かり、胸を打たれるとともに、法人としてそのような未来の実現に資するため、約10年ぶりにミッションをアップデートいたしました。あたらしいミッションは、「発達支援を必要とするすべての人が自分らしく学び、希望をもって生きていける社会をともに実現する」ことです。

これまで、保護者の皆様はじめ、本当にたくさんの支援者、有識者、市民の皆様が、当法人の想いに共感くださり、ともに担い手として、発達障害を取り巻く課題解決に取り組んでくださいました。当法人だけで出来たことなど一つもなかったと、全ての出会いとつながりに心から感謝しております。

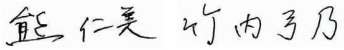
2020年は、未曾有の感染症被害拡大に社会のあり方が根本から問い直された年でした。感染症の被害に遭われた皆様とご家族、関係者の皆様には心よりお見舞い申し上げるとともに、医療関係者をはじめとするエッセンシャルワーカーの皆様には深く感謝申し上げます。コロナ禍で、難病・障害のある方、社会的養護を必要とする子どもたち、ひとり親世帯、一人暮らしの高齢者世帯など、社会構造によって弱い立場にある方ほど深刻なダメージを受けています。経済的困窮や社会的孤立など予断を許さない課題が表面化する中で、これらの課題が発達障害と切り離せないということも、私たちはよく認識すべきでしょう。

発達障害をとりまく社会状況は創業時と比べれば少しずつ良くなっているものの、コロナ禍では、相談や支援枠の縮小、自粛生活など突然の生活環境の変化で窮地に立たされたご家庭も多く、まだまだ必要な支援も情報も十分に届いていない状況が浮き彫りとなりました。やるべきことがまだたくさんあると日々痛感しながら、皆様に多大なお力添えをいただき試行錯誤を重ねた一年でした。

次の10年は、ミッションにある「ともに実現する」という言葉をさらに大切に、より広く深く社会の皆様と手を取り合うことで、お子様を取り巻く一人ひとりがよき支援の担い手となる社会、そして発達障害の概念が必要なく、誰もがよりよく生きられる未来の実現を目指してまいります。手段ではなく、ミッションの達成にこだわり、広い視野をもって一歩一歩進んでまいります。

コロナ禍がもたらした変化には希望もあり、テクノロジーの活用促進やSDGsへの関心の高まり、ESG投資の拡大など、社会課題解決が存在感を増す世界的なうねりの中で、私たちも知恵を絞って取り組みを加速させたいと思います。「すべての人が自分らしく学び、希望をもって生きていける社会」の実現にむけて、一人でも多くの方に、ともに歩んでいただけますと大変心強く思います。どうか引き続き、ご理解とご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

共同代表



Project

私たちの事業

ADDSは、社会の誰もがよき支援者になれるという理念のもと、
お子様とご家族を「支える」療育プログラムの提供や相談支援、
よき支援者を「育てる」人材研修、実践と研究を重ねて「考え」、
成果を正しく世に「広める」研究開発・普及啓発活動を行っています。

支える
SUPPORT

育てる
TRAINING

考える・広める
STUDY & SPREAD

支える
SUPPORT

障害児通所支援事業
指定管理事業
オンライン発達相談

- ADDS Kids 1st 荻窪／ADDS Kids 1st 鎌倉の運営
- 江戸川区発達相談・支援センターの運営
- オンライン発達相談サービスkikotto®の開発提供

発達支援が必要なお子様とご家族を直接サポートします。

ADDSの親子向け療育プログラムは、発達心理学と応用行動分析学という2つの学問領域から、現場の実践を通して開発しました。お子様の発達状況を丁寧にアセスメントし、一人ひとりに合った療育カリキュラムを構成、進捗に合わせて丁寧に更新することで、効率的に発達を促します。また、保護者の方にもE-learningや集合研修を通して理論を学んでいただき、家庭でも療育ができるように丁寧に課題内容も共有します。「保護者は子どもにとって一番の理解者であり支援者である」という理念のもと、ご家族とチームになってお子様一人ひとりのその子らしい学びをサポートします。

現在は、親子向け療育プログラム「べあすく」、個別の直接支援プログラム「学びの広場」、2人ペアの直接支援プログラム「びあまな」、集団クラスなど、様々なプログラムを開講しています。2009年の任意団体ADDS立ち上げ当初は、5家庭を対象に始めた取り組みでしたが、現在は、ADDS Kids 1st 荻窪・ADDS Kids 1st 鎌倉・江戸川発達相談・支援センターの3拠点で、年間100家庭以上へ提供することができるようになりました。

また、新型コロナウィルス感染症の拡大をきっかけに、全国どこからでもお子様の発達について専門家に相談できるオンライン発達相談サービスを開発しました。2020年度の開発期間には、モニターとしてご協力くださった約30家庭の保護者の方を対象に、ZoomやLineを用いて発達相談サービスを提供し、2021年4月に正式リリースしました。

育てる
TRAINING

支援者育成
事業

- AI-PAC（特許第6872811号）／「べあすく」導入支援
- 人材研修プログラムの提供、コンサルテーション
- 初級ABAセラピスト養成研修の提供
- 学生セラピストの育成

「支援者の学びの場」として、療育支援システムや研修プログラムを提供します。

ADDSは、立ち上げ当初より「支援者の学びの場」であることを大切にしてきました。現在、全国の障害児通所支援事業（児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業）を提供する事業所は2万カ所にのぼり、日々多くの支援者が、熱い思いを持って目の前の子どもたちに接しています。しかし、体系的な研修制度やプログラムをもつ事業者はまだ少なく、日々手探りで支援にあたる支援者の困り感や、全国的な支援の質のばらつきが課題となっています。また、保育所、幼稚園、子育て支援、学校、学童などでも、発達特性のあるお子様への適切な関わりについて学びたいというニーズは非常に大きいです。

ADDSでは、全国の既存の療育機関の先生たちが、お子様の発達状況に合わせた個別指導の課題構成や更新ができる療育支援システム「AI-PAC」や、保護者とチームで療育に取り組むための「べあすく」プログラムの導入支援を行っています。これは、H28年度にJST/RISTEX「研究開発成果実装支援プログラム」に採択された「エビデンスに基づいて保護者とともに取り組む発達障害児の早期療育モデルの実装」において開発と効果検証を行った仕組みで、現在は法人の独自事業として継続しています。現在までに、全国16事業所に提供してきました。連携機関の代表者の方、研究者や臨床家のアドバイザーの先生方とともに、EDS-NET（エビデンスに基づいた発達支援全日本ネットワーク）を設立、READYFOR休眠預金活用基金様の助成をいただき、支援者の学びのプラットフォームを構築しています。

また、個人の支援者向けに「初級ABAセラピスト養成研修」を提供し、現在までに100名以上の方に受講いただきました。より多くの方を受け入れることができるように、実践研修の一部をVRを活用したシミュレーション形式にするなど、改良を重ねています。

さらに、私たちは、自分たちも「学生セラピスト」だった経験から、保護者と良いチームにれば学生にもできることが沢山あると確信しており、学生セラピストの養成も行ってきました。ADDSの学生セラピスト部は、これまでに90名以上の卒業生を輩出し、早期支援の重要性と子どもの可能性を肌で感じ学んだ卒業生たちが、教育・福祉分野をはじめ社会の様々な領域で活躍しています。

考える・広める
STUDY & SPREAD

研究開発
普及啓発

- 研究開発事業
- シンポジウム、講座の開催

発達支援プログラムや支援システムの研究開発と、正しい情報を届ける啓発活動を行います。

ADDSでは、発達支援を行う中で蓄積してきたデータを研究の形でまとめ、その成果を通して早期支援の重要性を社会に発信してきました。また、効果のあるプログラムを自組織だけで提供するのではなく、全国各地の既存の療育機関でも活用いただけるよう、療育支援システムAI-PAC（特許第6872811号）の開発や、人材育成に活用するロボットやVRのプログラム開発を行ってきました。

平成28年度には、JST/RISTEX「研究開発成果実装支援プログラム」に「エビデンスに基づいて保護者とともに取り組む発達障害児の早期療育モデルの実装」が採択され、全国各地の療育機関と連携し、エビデンスに基づく療育支援が地域で提供される多くの事例を生み出しました。また、3年間のプロジェクト期間に30回以上の研修会を行い、地域での情報発信も行いました。

令和元年度には、JST/RISTEX「科学技術イノベーション政策のための科学研究開発プログラム」に「オープンサイエンスに基づく発達障害支援の臨床の知の体系化を通じた科学技術イノベーション政策のための提言」が採択され、AI-PACやVRの発展的開発と、教育・福祉など対人支援領域におけるデータの利活用の可能性や障壁調査を行っています。現場の質の高い実践から得られる臨床の知が、テクノロジーやデータの利活用を通して多くの当事者やご家族のサポートにつながるよう、連携機関やアドバイザーの先生方のお力を借りながら、研究と開発を続けてまいります。

Activities and Results

私たちの活動と成果

2020年度は、新型コロナウィルス感染症という
不測の事態に直面しながらも、法人の事業が大きく前進した年でもありました。
特に注目度の高かった、江戸川区発達相談・支援センターのオープン、
JST/RISTEXの研究開発プロジェクト、オンライン発達相談サービスの開発という
3つのトピックについて詳しくご紹介します。

▶成果1▶ 江戸川区発達相談・支援センター開設から1年

2020年4月に、「江戸川区発達相談・支援センター」がオープンしました。当法人が指定管理委託を受ける形で、自治体では初めて、RISTEX実装プロジェクトの成果である「ぺあすく」や「AI-PAC」の導入を本格的に進めて下さいました。

今年は、年間で約70家庭に「ぺあすく」を提供し、法人では初となる保育所等訪問の事業も開始しました。「ぺあすく」に参加して下さった保護者様は、多くが「このプログラムを受けてよかった」と感想を下さいました。また、自治体行政の方も、丁寧な意見交換を通じて、センターの取り組みの意義を少しずつ感じて下さっています。

このセンターは、早期療育を行う「児童療育事業」だけでなく、区内約140の幼・保園に支援者支援を提供する「巡回支援事業」や、全年齢に対する「発達障害相談事業」なども合わせて委託を受けております。昨年度、「発達障害相談事業」には約900人の方が相談をお寄せくださいました。困り感を抱える親子や当事者の方のニーズを肌で感じており、まだまだ多くの方に対応できるよう、運営の工夫が必要だと感じています。

まだセンターの運営は始まったばかりですが、年齢を問わず、発達の相談・支援を一体的に行う地域の中核拠点として、エビデンスに基づいた早期の支援が、当たり前に受けられる地域づくりに、貢献をしていきます。また、自治体モデルとして成果を出し、全国に広げていく布石ともなるよう、精いっぱい取り組んでまいります。

▶成果2▶ RISTEXによる「科学技術イノベーション政策のための科学 研究開発プログラム」に採択された「オープンサイエンスに基づく発達障害支援の臨床の知の体系化を通じた科学技術イノベーション政策のための提言」プロジェクト報告

R1年度から開始したオープンサイエンスに基づく発達障害支援の臨床の知の体系化を通じた科学技術イノベーション政策のための提言プロジェクト。たくさんの先生方にご協力いただき、様々な開発や政策的検討を進めております。バーチャル政策委員会では、たくさんの有識者の方にご協力いただき、3回にわたり、科学技術の対人支援への応用や、政策的な課題などの検討を行いました。難しいテーマですが、データが真に子どもを中心に利活用される未来、発達障害の概念が必要なくなる社会に向けて、非常に示唆にとんだディスカッションをさせて頂き、この内容は、今後の法人の方向性にも大きく影響を与えるだろうと感じております。

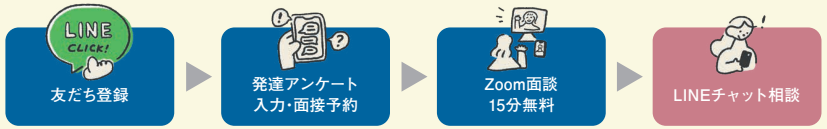
「学びと発達のビッグデータ」構想では、AI-PACに蓄積された療育課題に関する延べ34,915件のデータを解析し、お子さんの特徴の分類や、特徴に合わせた効果的な課題構成のリコメンド機能について、研究を行っています。発達の特性データと紐づけることで、AI-PACの履歴を活用した療育プログラム作成支援のリコメンドができる可能性が示唆されており、今後もしっかりと実証実験を進めていきたいと思います。法人としては、なじみのない政策や科学技術と向き合う日々ですが、素晴らしい多くの先生に支えられ、少しずつ意義ある成果を出しつつあります。「発達障害の概念が必要ない未来に向けて」をテーマに、科学技術の活用と政策提言に関する研究を、引き続き進めてまいります。

▶成果3▶ オンライン発達相談サービス kikotto

保護者から「子どもの発達」に関する相談にLINEチャットとZoomビデオ通話で臨床心理士など専門家が対応するサービス

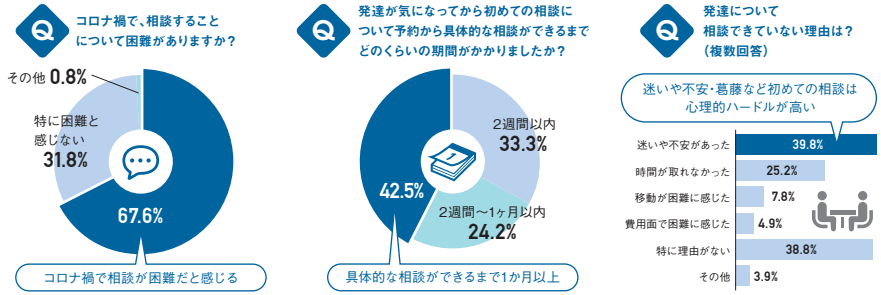
https://adds.or.jp/sodan/

- 対象：1歳～小学校6年生の子どもを持つ保護者
- 料金：月額2,980円（税抜）
  情報提供サービス「kikotto応援マガジン」（無料）　Zoom相談（30分4000円～）別途あり
- 特徴：いつでも・なんどでも相談でき、2営業日以内に回答が得られる



［課題の着眼点］
子どもの発達とコロナ

- 発達障害のお子さんの対応は家族でも難しい場合が多く、コロナ禍の**長い自粛生活の中で孤立し虐待**につながるケースが増える**リスク**などが指摘された。
- 発達状況をチェックする重要な機会である**乳幼児健診が休止**されたり、**発達相談の窓口が縮小**されたりした。
- そもそも既存の相談窓口は**心理的ハードル**が高かったり、**時間がかかりすぎ**たりすることにより具体的な相談に繋がり辛い状況もあった。



ADDS実施発達障害傾向をもつお子さまがいる保護者様のコロナ禍での困り度に関する調査
＜調査概要＞　●調査方法：インターネットアンケート　●調査実施期間：2021/03/10～2021/03/21　●対象地域：全国　●対象者：発達障害傾向をもつ0-12歳の子どもの保護者様　●回答者数：1028名

課題へのアプローチ

気軽さ	相談ツールに子育て世代に広く利用されているLINEを採用
安心	初回は相談員がZoomビデオ通話で対面に近い形で聞き取り
待たせない	契約月内いつでも何度でも2営業日以内に返信
AI	回答の最適化に機械学習も活用、相談員が最終的に内容をカスタマイズ

Zoomによる15分無料面談

kikotto ホームページ

オンライン発達相談サービスkikottoは、みてね基金・新型コロナウイルス感染症：拡大防止活動基金・クラウドファンディング「コロナに負けない！駆込み発達相談プラットホームを立ち上げたい」からご支援、ご協力を得て活動しています。

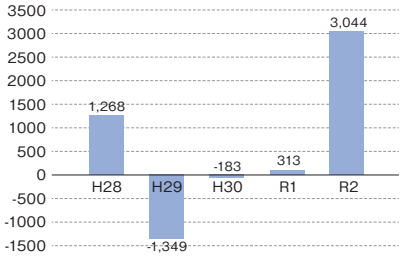
2020年度財務報告

〈データの前提〉

特定非営利活動法人ADDSは「発達支援が必要なすべての人が、自分らしく学び、希望をもって生きていける社会をともに実現します」というミッションを掲げ活動しています。利益は継続的に支援と研究を続けていく為に必要不可欠なものであると考え、本ページにおいて財政情報の開示を行い、経営の透明性を高めてまいります。

※事業規模の変化により、区分の変更を行いました。これまで、保護者研修、家庭療育サポート、支援者育成、普及啓発事業を全て「支援者育成事業」として1つの区分にまとめております。

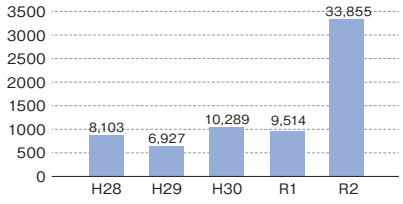
正味財産増減額（単位：万円）



度重なる緊急事態宣言により自粛を求められる社会情勢ではありましたが、児童発達支援事業におきましては、感染症のリスクを常に抱えながらも、多くのご家庭が利用してくださることで、高い稼働率を維持することとなりました。また、クラウドファンディング等寄附金や新たに休眠預金活用事業の助成プログラムもあり、令和2年度の正味財産増減額は約3,044万円となりました。皆様に広くご支持とご支援を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。

これからも安定した収益を目指し、継続的な支援事業と研究に役立ててまいります。

経常収益の推移（単位：万円）



令和2年4月1日に江戸川区発達相談・支援センターがオープンし、指定管理として運営しております。年間で約70家庭に「べあすく」を提供し、法人では初となる相談事業や保育所等訪問の事業も開始しました。引き続き、区立のセンターとして地域の状況や課題に応じて事業所の運営を行ってまいります。指定管理収入以外の既存の事業につきましても、障害児通所支援の安定的な運営やRISTEX事業で開発が終了したAI-PACの事業などにより、令和2年度の経常収益は33,855万円となりました。

令和2年度活動計算書

（単位：円）

科目		金額
経営収益	1 受領寄付金	2,760,181
	2 受領助成金等	259,896,625
	受取補助金等	30,113,020
	指定管理収入	229,783,605
	3 事業収益	74,911,626
	支援者育成事業	8,585,291
	障害児通所支援	60,647,565
	収益事業	5,678,770
	4 その他の収益	982,432
経営収益計		338,550,864
経営費用	1 事業費	283,189,115
	2 管理費	24,917,675
経営費計		308,106,790

科目		金額
経常外収益	1 当期経常増資額	30,444,074
経常外収益計		0
経常外費用		0
経常外費用計		0
前期繰越正味財産額		34,104,554
法人税、住民税及び事業税		599,500
次期繰越正味財産額		63,949,128

以上、NPO会計基準に従ってご報告いたします。
ADDSは今後も財務の健全化と透明性に努めてまいります。

これまでの活動実績（一部抜粋）

2009

2009年8月～2010年3月　NEC社会起業塾第8期生選出
11月　「特報首都圏～根付くか、ソーシャルビジネス～」NHK放送

2010

5月　「発達障害児学生が指導」読売新聞, 5月12日夕刊掲載
8月　「自閉症児の可能性を最大限に伸ばす社会を」
日経ウーマンonline8月9日掲載
12月　「～その問題解決に私たちが出来ること～」慶應義塾大学季刊広報誌「塾」
12月　「夢は社会起業家」朝日新聞朝刊掲載
内閣府地域社会雇用創造事業ソーシャルベンチャースタート
アップマーケット第1期選出

2011

5月　「凛たる女性」の肖像〈5〉PHP出版, 「VOICE」2011年5月号

2012

7月　「キーワードはシンプルドラマチック。学生セラピストと一緒に、自閉症の子どもの可能性を広げる」greenz.jpインタビュー記事掲載
12月　一般講演「自閉症児のコミュニケーションと情動～NPOにおける実践と研究～」第2回日本情動学会大会

2013

1月　公開講座「発達障害児のためのABA早期療育の現在」
ABA療育エージェンシー連絡会&NPO法人つみきの会共同主催
2月　応用行動分析に基づいた自閉症の早期療育支援
～NPOにおける実践と研究～日本行動分析学会ニューズレター,69号
4月　トークライブ「社会を動かす起業家と語る、女性の新しいワークスタイル」
NPO法人ETIC.主催
7月　招待講演「自閉症を取り巻く全ての人を支援者に保護者と学生へのセラピスト研修」第2回日本小児他職種研究会
8月　準備委員会企画シンポジウム「発達・教育支援におけるエビデンスにもとづいた実践」日本教育心理学会第55回総会
11月　平成25年度発達障害に関する教職員の専門性向上事業に係る
秋期集中トレーニング徳島県教育委員会主催

2014

7月　「認知・感情・適応の心理学」特別招聘スピーカー（同志社大学）
7月　「自閉症スペクトラム特集ー民間施設成長に応じ療育」
読売新聞医療ルネッサンス, 7月9日記事掲載
10月　ワークショップ5「ABA」演者第55回日本児童青年精神医学会総会

2015

4月　第38回社会事業家100人インタビュー
～自閉症支援に効果ある手法を実証して拡げる～
5月　子供の可能性を伸ばすもの・あそび・ないごと特集祥伝社「nina's」
5月　人事院初年度研修「社会の変革に挑む起業家の取り組みに学ぶ」内閣府
8月　「心の健康を守る（2発達障害の体験会」
読売新聞医療ルネサンス8月20日掲載
8月　「発達障害を疑似体験教育現場へ」NHKおはよう日本8月28日放送
9月　ケースで学ぶ行動分析学による問題解決子育て・保護者支援②
執筆, 金剛出版
11月　「優れた療育法教育に導入」読売新聞医療ルネサンス, 11月25日記事掲載
12月　特集発達障害における早期療育の必要性寄稿)), アスペ・エルデの会, アスペハート41号

2016

1月　「壁を壊す1自閉症を疑似体験」神奈川新聞, 1月21日掲載
4月　「自閉症の子供の療育を支援、イノベーション女子」
経済誌FORBESJAPAN掲載
4月　「子供の発達障害、早期発見が大切社会的自立へ支援広がる」
日本経済新聞, 4月20日掲載
6月　「ほめて伸ばす！子供の発達障害」NHKあさイチ放送
11月　「うちの子、少し違うかも～発達障害に対する適切療育・支援のための研究開発～」科学技術振興機構主催サイエンスゴアラ2016

2017

内閣府「社会的インパクト評価イニシアチブ」東京会場互選選出
8月　一般社団法人日本行動分析学会2017年度学会賞（実践賞）受賞
9月　「音と光の動物園」東京藝術大学・ベネッセこども基金と共に開催
11月　「うちの子、少し違うかも…II～エビデンスに基づく発達障害支援をみんなで考える～」科学技術振興機構主催サイエンスゴアラ2017
12月　「エビデンスに基づく早期療育モデルで描く未来地域で
拓く親子の可能性」開催, RISTEX実装プロジェクト公開シンポジウム

2018

4月　「日本における発達障害児の早期療育の展望
～エビデンスに基づく早期療育モデルで描く未来～」,
発達障害の支援を考える議員連盟総会研修会講師
4月　世界自閉症啓発デー啓発DAY東京タワー発達障害体験ブース出展
9月　2018年度チャンピオン・オブ・チェンジ日本大賞入賞
12月　「エビデンスに基づく早期療育モデルで描く未来vol2 親子の幸せを科学する地域療育の挑戦」開催, RISTEX実装プロジェクト公開シンポジウム
2018年度ドコモ市民活動団体助成事業採択シンポジウム

2019

6月　**社会実装の手引き－研究開発成果を社会に届ける仕掛け（単行本）内に**
「エビデンスに基づいて保護者とともに取り組む発達障害児の早期療育モデルの実装」掲載
8月　日本自閉症スペクトラム学会第 18 回大会「エビデンスに基づいて保護者とともに取り組む発達障害児の早期療育モデル」発表

2020

6月　みてね基金「発達障害児と保護者のための駆込み発達相談
プラットフォームの構築」採択
6月　READYFOR新型コロナウィルス感染症：拡大防止活動基金　採択
6月　READYFOR休眠預金活用基金　採択
7月　クラウドファンディング達成
【コロナに負けない、駆込み発達相談プラットホームを立ち上げたい】
8月　行動分析学会第38回年次大会「臨床現場で求められる実践家の育成」発表
11月　江戸川区発達相談・支援センターバーチャル見学ツアー・
オンライン講演会開催

2021

2月　「オープンサイエンスに基づく発達障害支援の臨床の知の体系化を通じた科学技術イノベーション政策のための提言」
第2回シンポジウム「テクノロジー×福祉が描く未来社会～子どもを中心としたデータ利活用を目指して～」開催
2月　公認心理師の会ワークショップ「親子共学型プログラム「べあすく」を学ぶ－応用行動分析(ABA)に基づいた早期支援」
4月　オンライン発達相談サービスkikottoリリース
5月　朝日新聞出版AERA 2021年5月24日増大号巻頭特集
「発達障害「困りごと」改善の新機軸」に掲載

STAFF'S VOICE

ADDS職員に聞いてみました

学生時代から働いています

金田 祐磨
かなだ ゆうま

児童指導員

Q ADDSで叶えたい夢はなんですか？

夢は担当したお子さんと**映画の話**をすること。熱く語りたい。人って**楽しい**、一緒に遊ぶのって楽しいとたくさんの子ども達に感じてもらいたい。

Q ADDSの他にはない自慢できるところは？

デスクが**おもちゃまみれ**でも大丈夫なところ。

ポジティブでみんなが情熱をもって職場にいるところ。

丸瀬 里菜
まるせ りな

児童指導員／公認心理師／臨床発達心理士

Q ADDSのこんなところが困る！というところは？

理事の発想が四次元ポケット

その中でも**困った！**と思ったのは、10周年パーティーの直前に、みんなでハロウィン仮装をしよう！と提案があったこと。理事の四人はあるアニメキャラ（妖怪）になりきった格好で、壇上で真面目にディスカッションしていて、面白センスに脱帽しました。

Q 他にはない自慢できるところは？

みんな**褒め上手**。対子どもだけではなく、スタッフ同士の日常的な会話や業務の中でも、自然と些細なことでも褒め合い、感謝しあっていることが多くあります。

白井 律子
しらい りつこ

発達相談室「ないろ」・発達障害相談センターの管理者／公認心理師

Q ADDSを一言でいうと？

Do Your Bestの塊

Q どんな時にやりがいを感じますか？

産みの苦しみは常にありますが…**妥協せず**に具体的な支援方針を相談センター内の職員と考えることができる時にやりがいを感じます。

Q ADDSで叶えたい夢はなんですか？

ADDS理念の「保護者は子どもの一番の**専門家**になれる」という考えが日本の津々浦々まで浸透していくことが夢です。

ADDS座談会

ADDSだからこそ、私たちは変化する。
ベテラン職員対談

菊地 麻美
人材育成事業担当／保育士／療育アドバイザー

加藤 孝央
江戸川区発達相談・支援センター 児童発達支援管理責任者／公認心理師／療育アドバイザー

こんな社風

加藤：いいところを伸ばす社風がありますね。

菊地：**いいところについてフィードバック**した方が、みんなにいいよねっていう考え方が、自然と身についている社風だと思う。

加藤：みんな出来るところ出来ないところデコボコしていて、**私たち大人も子どもと一緒で、同じように成長していくんですよね。**

菊地：その考えがベースにあって、適材適所で働かせてくれると感じますね。色んな面で相乗効果があると思う。

加藤：菊地さんは、器用で気がきくし、周りをよくみてますよね！うちの弟も菊地さんに育てて貰いました。

菊地：そんなことないです…でもそんな風に言って貰えてありがたいです。加藤さんは、初めましての人や働き始めて間もない人を気にして声をかけてますよね！気づくと仲良くなっているので、私もマネしたいと思っています。

加藤：そうですか？ありがとうございます！

入社して間もない頃のこと
（加藤入社8年目、菊地入社6年目）

加藤：本当に小さい組織から大きくなりました。当時は小さいマンパワーでいかに多くの事を成し遂げるかでした。

菊地：小さい組織だけど**夢はめっちゃでかい！**ところもあって。

加藤：当時掲げたミッションを達成すべく走ってきましたが、今はまたさらに大きなミッションに立ち向かってますよね。

菊地：こんな事もありました。**全員集まってダンスの練習したり、替え歌作ったり**、一年に二回くらいやってた。恋ダンスとかUSAとか。

加藤：卒業する学生セラピストを送るために、**びっくり動画**を撮るんです。

菊地：学生一人一人にメッセージを送るのに、**ありきたりは面白くない**からって事で。入社してすぐに西川たかのりのモノマネさせられたのは、すごい恥ずかしかった！！黒いテープまかれて！

加藤：そうそう！**あれは恥ずかしかった！**

菊地：恥ずかしがった方が恥ずかしい、と分かってからは全力で！

加藤：最後は率先して衣装とか考えてましたね。

菊地：まゆげ上手に書いたりね。

加藤：もはや変なところと思っていないレベルになりましたね。最近は集まって動画撮るのは難しいので、逆に寂しくなりました。

自分自身が変化しました

菊地：私は、今までの考え方が入社してから変わりました。いいところに注目するという考え方になれた事がとても大きい変化でしたね。お互いに高め合う職場環境って本当に素晴らしいなと感じています。

加藤：そうですね。それに、改善点をしっかり整理する事が自然に根付いているのがすごいと思います。振り返りをして修正して臨む、というのがセラピーだけでなく自分自身の変容に繋がりますね。

対談後記

自分自身をポジティブに変化させながら、子ども達や保護者の方々と共に成長してきたお2人を感じる事ができました。加藤さん、菊地さん、貴重なお話をありがとうございました！！

ADDSを支えてくださる関係者の声

ADDS連携拠点の施設長。保育や医療関係者も巻き込む地域づくりで親子をエンパワーする恵美子先生！

特定非営利活動法人EPO
ぷりんぐあっぷちば子ども発達センター 施設長 **小山 恵美子** 様

地域が期待するシンクタンクへの成長を

『うまれてきてくれてありがとう、今、心からそう思えました…』早期療育モデル実装プロジェクト『ぺあすく』を振り返り、あるお母様から寄せられた言葉です。

平成29年、民間運営の児童発達支援センターを立ち上げた私達が、家族への具体的支援を模索していた時に出会ったのが、ADDS熊井周代表でした。セラピスト育成、親子共育型支援運営において、ADDSの皆様より、根気強く丁寧なサポートを頂き、80組のご家族に支援を提供することができました。育児の中で起こりうる日々の悩み事を具体的に解決するコンテンツや体系化された研修システムと提供課題データの視覚化により、関係者が一致した手立てを講じて積み上げる仕組みは、私達の日々の支援の在り方にも変化をもたらしました。

全国展開のこのプロジェクト、その苦労はあまり語られていませんが、開発者自身が全国を駆け回って汗をかき、臨床データを携え冷静に、時に情熱的に語りかけてきた地道な努力を重ねる姿を目にしてきました。そうした信頼やつながりの中で築いてきたEDS-NET。改めてADDSの皆様の熱い思いとその機動力に、敬意を表します。

AI-PACに蓄積される膨大なデータが解析され地域の支援拠点へ還元される…。そこで示される情報が研究の素材としてまた届けられる…。私共は地域の支援拠点として双方向のフィードバックの一端を担っていきたいと希望を持っています。

冒頭に記したような、生の声を、より多く集めるための研究、そして提言を。この国で活きるABAの構築を。ADDSの今後の躍進を期待しています。

豊富な技術的知見と分析力、あくなき情熱と包容力でADDS×ICTの未来を探求・伴走してくれる黒田さん！

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
コンサルティング事業本部 ココロミルラボ **黒田 由加** 様

現場の知を活用し、政策提言へ

ADDSの皆さまとは、2018年からRISTEXのプロジェクト等を通じて、療育や事例データを集め、活用する取り組みを行っています。

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社からは、サービスデザイナーである私だけでなく、AIやデータサイエンスを専門にするメンバーが参画。保護者と支援者の皆さまが一緒に取り組む療育の現場で、いかにデータを収集し、活用できるかという視点で、ユーザーリサーチからデータの収集プラットフォームの試作・改善、データ分析などをご支援しています。ADDSの作り上げたAI-PACは、実装先の機関の支援者や保護者の皆様にとっても、大切な羅針盤の役割を果たしています。

私たちのご支援は、その療育プログラムを、それぞれのお子さまにあったものにカスタマイズすることで、効果的な療育を実現し、さらに、より良い支援方法を見つけ出す役割を担うものに進化させていく取り組みです。ADDSの皆様の熱い想いは、未就学児の療育にとどまりません。これから学童期を迎え、成長していくお子さまとその保護者の皆さまのサポートにつなげていこうと、研究開発を重ねています。

今後は、総合シンクタンクとして、こうした取り組みの成果を政策にも反映できるようご支援して参りたいと思います。

ADDSを支えてくださった企業・団体のみなさま

（一部ご紹介・順不同）